



1

下村脩博士 逝去 2018.10.19

長崎大学名誉博士である下村脩先生が2018年10月19日、永眠されました。享年90歳でした。下村博士は、薬学部の前身である長崎医科大学附属薬学専門部の卒業生です。ご卒業後は、名古屋大学やプリンストン大学で研鑽を積まれました。そして、2008年にはノーベル化学賞を受賞されました。2009年に本学で行われた受賞記念講演会では、「どんな難しいことでも、努力すれば何とかできる。絶対あきらめないで成功するまで頑張ろう」という若者へのエールをくださいました。2018年12月2日には、お別れの会が開かれ、大先輩との別れを惜しまれました。



2 学長交代 2017.10.1



2017年10月1日、河野茂学長が就任しました。就任から1年が経ち、情報系新学部や多文化社会学研究科博士後期課程の設置計画など、就任時に掲げた「社会に貢献する志の高い学生を育てる教育」「ヒトの幸福と平和を希求し、科学を用いて世界に資する研究」「長崎の未来を創る大学」「教職員の多様性とやる気を生かす大学」の実現に向け、様々なプロジェクトが進行しています。

2016年4月14日、最大震度7を観測した「平成28年(2016年)熊本地震」が発生しました。長崎大学からも60名以上の学生が、熊本県阿蘇市等にて災害ボランティアとして活動しました。学生たちは、瓦礫の片づけや家屋の解体準備作業、古民家修復作業に精力的に取り組み、復興を支援しました。学生自身にとっても、大きな経験、学びとなった活動でした。



3 熊本地震 2016.4.14

2018.3.26 新・長崎丸 竣工

32年間活躍した三代目長崎丸に代わり、四代目長崎丸が建造されました。四代目には、最先端の設備が備わっており、三代目が東日本大震災の際に被災地に赴き支援活動を行った経験から、支援物資の輸送に配慮した設備も付加されています。コンセプトは、「東シナ海の水産・海洋科学をリードする国際洋上キャンパス」。水産学部生や他学部生のみならず、国内外の他大学の学生にも乗船してもらい、共に水産学、海洋学を探究する場を目指しています。



4

BSL-4施設の起工式が 2019.1.26 行われました

2019年1月26日、長崎大学が検討を進めているBSL-4施設の起工式が執り行われ、工事の安全を祈願しました。施設の建設工事は、2021年7月末まで行われる予定です。長崎大学は引き続き、施設整備と管理運営の両面において高度の安全性を確保し、本施設が、地域の発展にも貢献し、皆様に誇りに感じていただけるよう全力で取り組んでいきます。
※感染症の脅威から生命を守るため、感染症の仕組みの解明、ワクチン・治療薬の研究開発や人材育成を行う施設。

7

「風に立つライオン」 「母と暮せば」 2015

2015年には、長崎大学に縁のある映画2本が公開されました。「風に立つライオン」では、1970年代にケニアでの医療活動に従事した長崎大学の医師が主人公のモデルとなり、医療技術協力やケニアロケのサポートを行いました。「母と暮せば」では、主人公の浩二が長崎医科大学学生という設定で、医学部を中心に資料集めやエキストラの出演などの協力を行いました。医学部記念講堂で行われた山田洋次監督の特別講義には、吉永小百合さん、二宮和也さんがゲストとして駆けつけ、会場は大いに盛り上がりました。また、良順会館では、学生主体の公開記念企画展が開催されました。

8

情報データ科学部(仮称)と多文化社会学研究科(博士後期課程)の設置構想

2018 5

2020年の開設に向けて、情報データ科学部(仮称)および多文化社会学研究科(博士後期課程)の設置を計画しています。情報データ科学部(仮称)では、これまでの工学部工学科情報工学コースを核に、データサイエンスの教育研究機能をブラッシュアップし、ビッグデータや人工知能を活用できる「インフォメーションサイエンティスト」、ITビジネスや医療情報解析に精通した「データサイエンティスト」などの実践的な人材を育成します。また、多文化社会学研究科(博士後期課程)では、人文社会科学系の超域的かつ俯瞰的な専門知である多文化社会学を修得し、21世紀社会の「多文化社会的状況」における諸問題の「問題本質の見極め」と「問題解決に向けた多様な解の提示」に取り組むことのできる、研究者及び高度専門職業人等の養成を行います。

6 熱帯医学・グローバルヘルス研究科の設置 2015.4

熱帯医学・グローバルヘルス研究科は、既存の学術境界を越えた新たな総合的アプローチにより、世界の健康問題の解決をめざす「グローバルヘルス領域」で、国際的に活躍できる人材を養成する大学院として2015年4月に設置されました。さらに、2018年10月には、高度な「知のプロフェッショナル」(博士人材)の育成を目的



とした文部科学省の卓越大学院プログラムに九州で唯一採択されました。採択された本学のプログラムは、この領域において世界トップレベルのロンドン大学衛生・熱帯医学大学院とのジョイント・ディグリー(国際共同学位)に象徴される強固な連携を中核として構築しており、地球規模の健康課題の解決に貢献できる人材を養成していきます。

「ヘルシーキャンパスプロジェクト」始動

「ヘルシーキャンパス」とは、学生や教職員の健康増進と研究成果の還元を通じて、アカデミアとして健康長寿社会に貢献しようとする取り組みです。2018年7月6日に行われたプロジェクトのキックオフイベントでは、鈴木大地スポーツ庁長官、V・ファーレン長崎の高田明社長、園田裕史大村市長、沢水清明長崎県福祉保健部長などが講演や座談などを行い、華々しいスタートとなりました。このほか、長崎大学生協との連携のもと「5・4・3ヘルシー弁当」の販売を行ったり、全キャンパス禁煙化を推進したりするなど、学生・教職員の健康増進に寄与する取り組みが企画されています。



2018.7 9

核兵器廃絶を考える 国際学術誌J-PANDを発行

被爆地長崎から核兵器廃絶に向けて、英文ジャーナルJournal for Peace and Nuclear Disarmament(J-PAND)が2017年12月に創刊されました。核兵器廃絶研究センター(RECNA)が編集するJ-PANDの目的は、理論・実践の両面に関する研究を基盤としながら、核軍縮と平和の促進に寄与することにあります。年2回発行で、掲載論文等はすべて、英国テイラー&フランシス社のウェブサイトで無償提供されます。



2017 10